

## 北アルプスに生息するニホンジカの季節移動

○田中 旭 (信州大学院・山岳科学研究所)・

泉山茂之・瀧井暁子(信州大学・山岳科学研究所)・望月敬史 (あかつき動物研究所)

### 1. 背景・目的

長野県において、南アルプス、八ヶ岳、関東山地を中心にニホンジカ (*Cervus nippon*) が生息しており、その分布範囲は拡大傾向にある。近年では、これまで分布が確認されていなかった中央アルプスや北アルプス地域においてもニホンジカの生息が確認されるようになってきている。北アルプスの高山帯へのニホンジカの侵出が懸念されていく中、ニホンジカの生息状況について痕跡調査やライトセンサス調査が実施されているが、ニホンジカの行動生態についてはほとんど明らかになっていない。

長野県に生息するニホンジカは、主に積雪によって夏季行動圏の利用が制限されるため、冬季に異なる地域へ季節移動するという報告が多い。また山岳地域では冬季により低い標高へ季節移動する、標高移動を示すことも知られている。

そこで本研究では、北アルプス北部地域におけるニホンジカの季節移動について明らかにすることを目的として、GPS 首輪による個体追跡を行った。

### 2. 調査方法

ニホンジカの捕獲は、2012年5～6月、10～11月、2013年5～6月に北アルプス北部に位置する長野県大町市の籠川、鹿島川流域で行った。これまで14頭(オス5頭、メス9頭)のニホンジカを捕獲し、GPS 首輪 (Vectronics Aerospace GmbH, GPS PLUS-1 Collar) を装着し、個体追跡を実地した。GPS 首輪から得られた測位データは、GIS ソフト (ESRI ArcGIS9.3.1) を用いて解析した。また夏季行動圏から冬季行動圏への移動を秋の季節移動、冬季行動圏から夏季行動圏への移動を春の季節移動とした。

### 3. 結果・考察

ニホンジカの季節移動の開始日について表1に示す。多くの個体が国道148号を通過し、大町市東部の八坂村に滞在していたが、季節移動を行わず定住する個体もいた。秋の季節移動については2012年、2013年ともに日平均気温が0℃を下回った時期から移動を開始する個体が現れ始め、積雪日に多くの個体が移動を開始した。しかしながら、中には11月中旬～下旬に移動する個体も確認された。夏季と冬季の利用標高については、季節移動個体は全ての個体でより低い標高を利用していた。定住個体については有意な差は見られなかったが、積雪が少ないとされる南斜面を利用し、非常に狭い行動圏に滞在していた。

表1 季節移動個体の移動開始の中央日

季節	年	N	移動中央日	Range
秋	2012	7	12月10日	(11月15日～12月10日)
	2013	7	12月12日	(11月23日～12月19日)
春	2013	7	3月28日	(3月8日～4月9日)
	2014	6	3月26日	(3月18日～3月28日)

表2 ニホンジカの季節ごとの利用標高

	季節移動個体			定住個体		
	オス	メス	合計	オス	メス	合計
個体数	5	5	10	0	4	4
利用標高(m)						
夏季	1,274±89	1,267±117	1270±99	-	1,211±151	1,211±152
冬季	892±24	815±108	849±88	-	1,013±27	1,013±28